



こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究 － 第1回検討委員会 －

調査研究の概要

2022年8月3日

株式会社NTTデータ経営研究所

調査研究の背景・目的

- こどもまんなか社会を目指す司令塔として設置されるこども家庭庁の任務として、こどもの意見を政策に反映し、社会参画を促進することが規定されている。この背景のもと、本調査研究は国の政策決定過程における取組の在り方を明らかにすることを目的に実施する。

背景

■ こども家庭庁の創設

- こどもまんなか社会を目指すための司令塔：常にこどもの最善の利益を第一に考え、こどもに関する取組・政策を我が国社会の真ん中に据える

■ こども政策の基本理念

「こども政策の新たな推進体制に関する基本方針」より

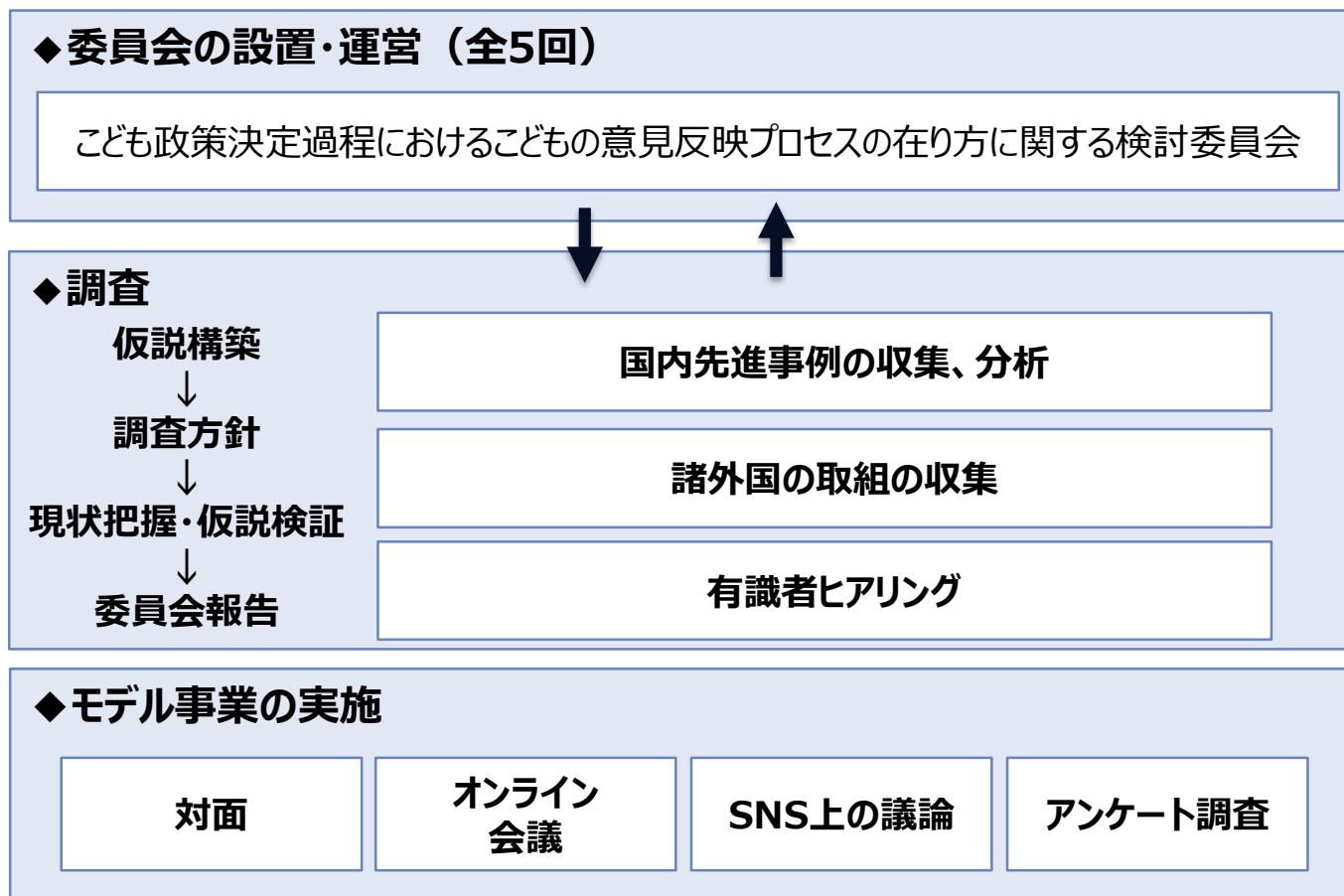
- **こどもの視点、子育て当事者の視点に立った政策立案**
- 全てのこどもの健やかな成長、Well-beingの向上
- 誰一人取り残さず、抜け落ちることのない支援
- 切れ目のない包括的な支援
- プッシュ型支援、アウトリーチ型支援に転換
- データ・統計を活用したエビデンスに基づく政策立案、PDCAサイクル

- こどもは保護者や社会の支えを受けながら**自己を確立していく主体**と認識し、保護すべきところは保護しつつ、**こどもの意見を年齢や発達段階に応じて政策に反映、若者の社会参画の促進**
- 家庭が基盤。親の成長を支援することがこどものより良い成長につながる。子育て当事者の意見を政策に反映

目的

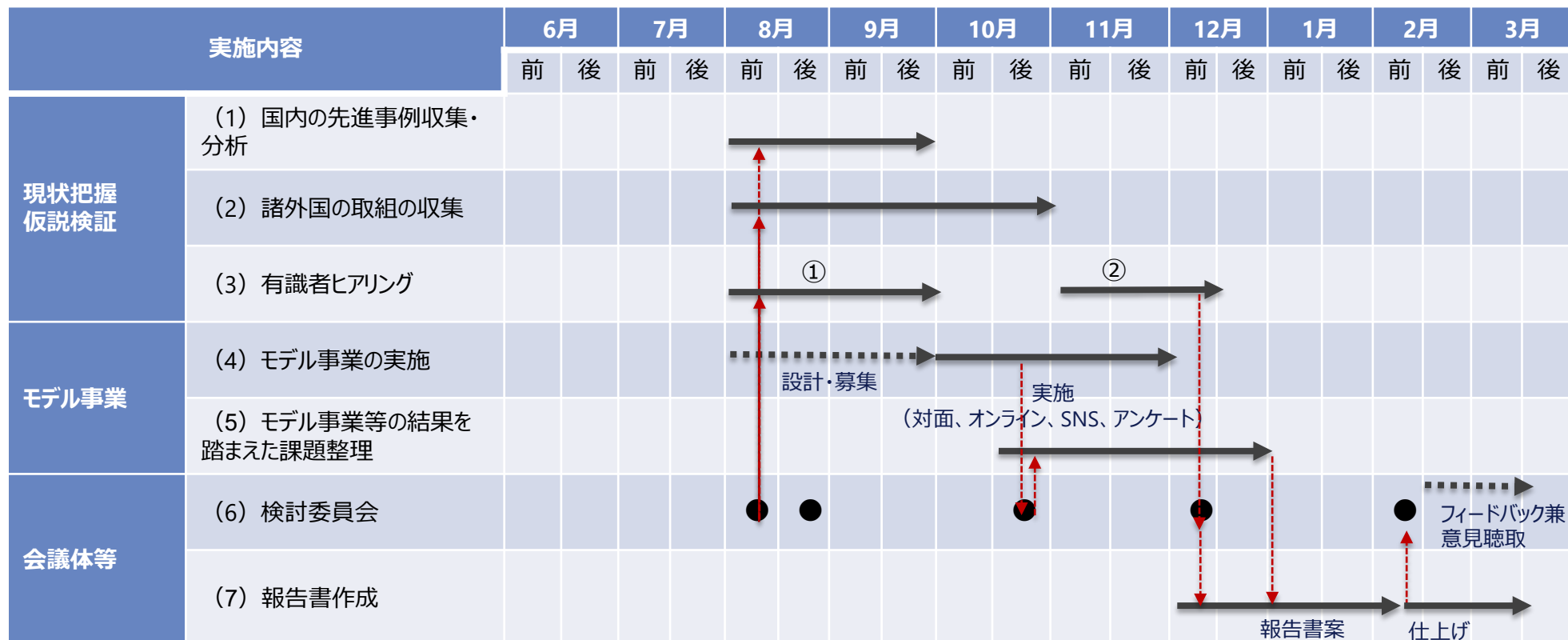
- 政策決定過程におけるこどもの意見聴取とその反映及びこどもや若者の参画に関し、
 - 地方公共団体の先進事例の情報収集
 - 諸外国の取組についての情報収集
 - 有識者からのヒアリング
 - モデル事業を実施
 - 国の政策決定過程における取組の在り方提示

調査の全体像



- こどもの意見聴取とその反映及びこどもや若者の参画の手法等についての課題の整理
- こども視点に立った政策立案に向けて、こどもや若者が参加しやすく、意見を表明しやすい環境構築するためのこども家庭庁に対する提案の取りまとめ

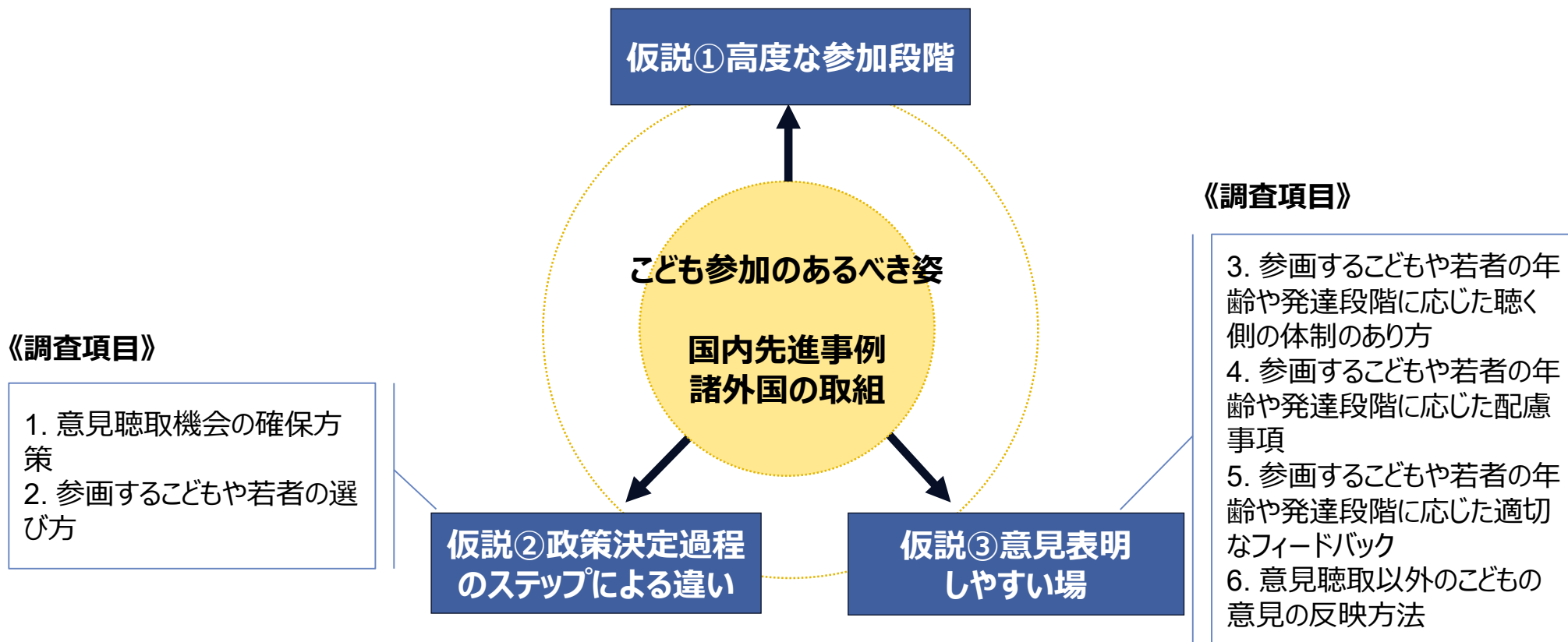
全体スケジュールと想定議題



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
議題 (案)	<ul style="list-style-type: none"> 調査概要 国内先進事例調査案 有識者ヒアリング案 	<ul style="list-style-type: none"> 調査進捗報告 海外事例調査案 モデル事業案 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業進捗報告 	<ul style="list-style-type: none"> モデル事業結果 報告書構成案 	<ul style="list-style-type: none"> 報告書 (案) 委員意見：今後の在り方

調査仮説

- こども参加のあるべき姿を体現していると想定する先進事例や諸外国の取組は、**①高度な参加段階を実現・実現を目指している**、その実現方法は一度きりの個別的イベントではなくプロセスとして実現されているが、**②政策決定過程の場面による違いがある**可能性がある、**③意見を表明しやすい場が設計されている**と仮定する。

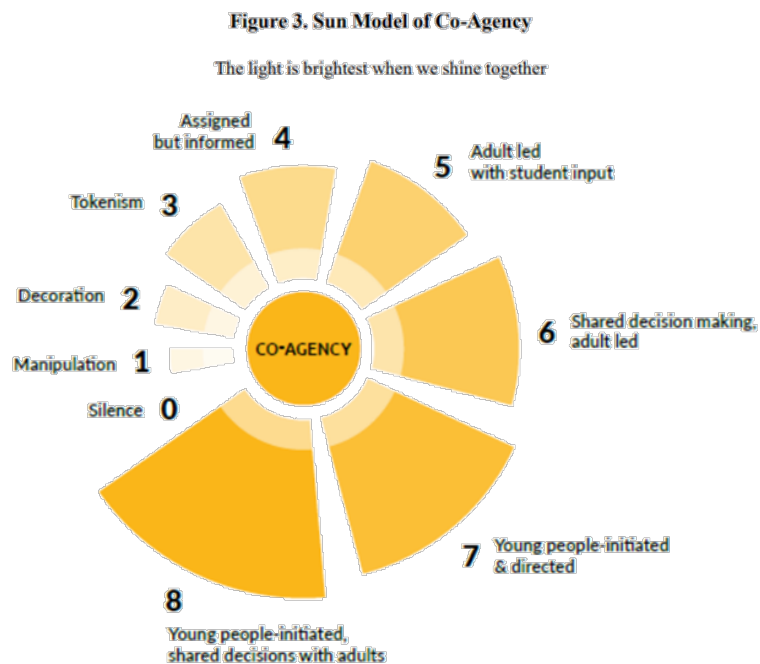


凡例) 数字は仕様書中の調査項目番号

調査仮説① 高度な参加段階～こども参加の段階

- こども参加の在り方検討にあたっては、OECDが提唱する共同エージェンシーの考え方が参考にできると考える。OECDによると、意思決定と大人との関係性において共同エージェンシーには9つの段階があるとされる。
- 段階が低い関わり方の場合はこどもの参加は形式的になるため、本調査研究における先進事例は段階5以上のこども参加を実現している・目指していると想定する。

共同エージェンシーの太陽モデル



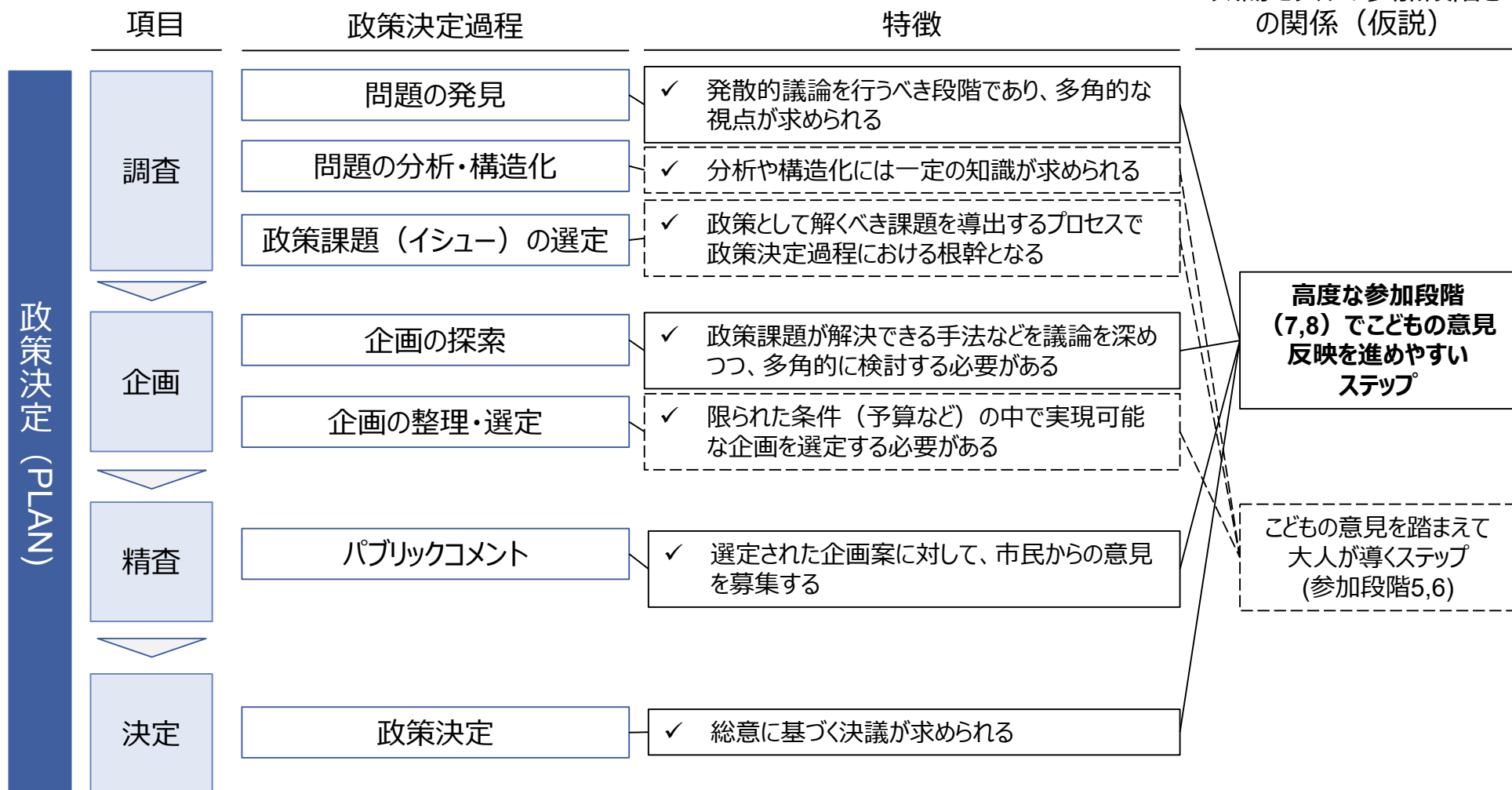
- 0 沈黙
- 1 操り
- 2 お飾り
- 3 形式主義・形だけの平等
- 4 若者に特定の役割が与えられ、伝えられるだけ
- 5 **生徒からの意見を基に大人が導く**
- 6 **意思決定を大人・若者で共有しながら、大人が導く**
- 7 **若者が主導し、方向性を定める**
- 8 **若者が主導し、大人とともに意思決定を共有する**

出所) OECD Future of Education and Skills 2030及びStudent Agency for 2030仮訳

調査仮説②政策決定過程のステップによる子ども参加の違い

- ▶ 子ども政策決定過程において、高度な参加段階で子どもの意見反映を進めやすいステップがあると想定している。
- ▶ 望ましい子どもの意見聴取や参加手法は、政策決定過程において求められる「深い議論（質）」と「意見の数（量）」に即して選定する必要があると考えている。

太陽モデルの参加段階との関係（仮説）



調査仮説③こどもが意見表明しやすい場

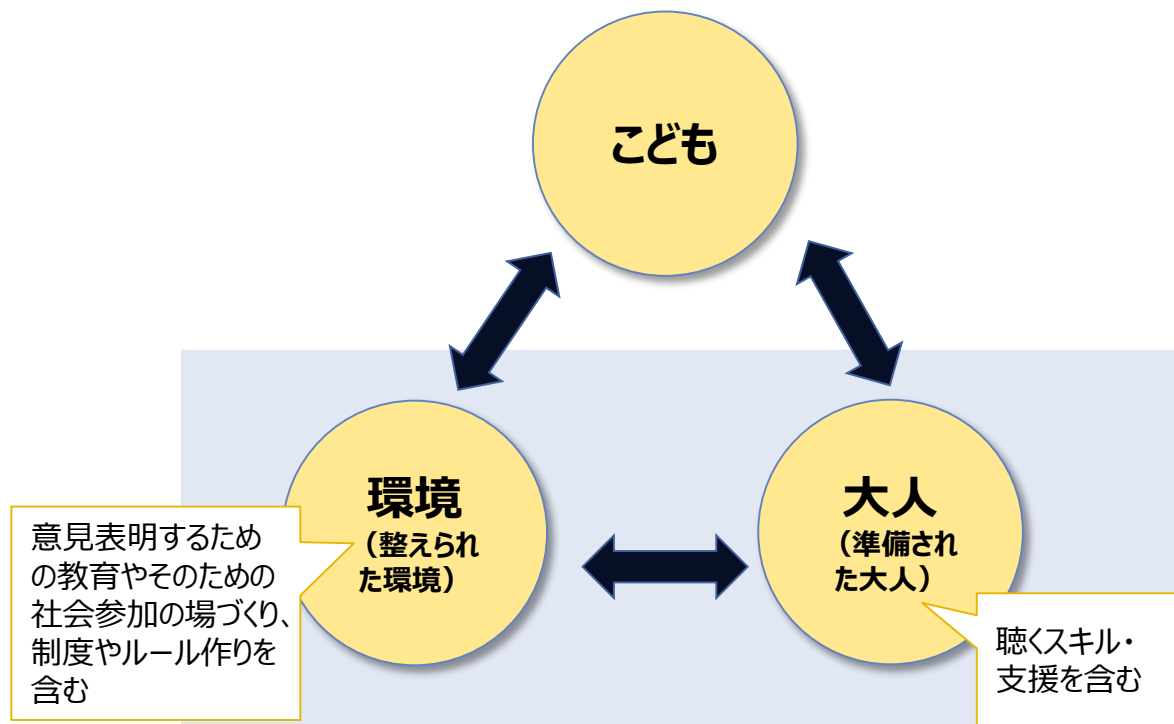
- こどもは年齢や発達段階に応じて（非言語的コミュニケーションを含め）意見を表明する能力を持つが、行動のハードルを踏まえると、こども政策決定過程においてその能力を発揮して参画し意見を表明するにはそれを可能とするプロセスや場が必要と想定される。

プロセス

- ✓ 透明かつ情報が豊かである
- ✓ 任意である
- ✓ 尊重される
- ✓ こどもたちの生活に関連している
- ✓ こどもにやさしい
- ✓ インクルーシブである
- ✓ 訓練による支援がある
- ✓ 安全であり、かつリスクに配慮している
- ✓ 説明責任が果たされる

出所) 児童の権利委員会一般的意見第12号
「D.意見を聴かれる子どもの権利を実施するための基本的要件」

場



(参考) モンテッソーリの三角形